

令和7年度 東京都立羽村特別支援学校 学校評価を踏まえた提言

1. はじめに

今年度の学校評価アンケートは、93%という高い回収率と肯定的な回答が89%となった。このことは、保護者からの関心の高さと学校の取組みについて評価されていることの表れである。尊重を意識しながら「安心・安全な学校」を目指し取り組んだ成果と考えられる。信頼回復に向け、一人一人の教職員が真摯に教育活動に励まれたことに敬意を表したい。

今回の学校評価の結果に満足することなく、学校に寄せられる意見に耳を傾け、今後も家庭・地域との連携を大切にされた学校運営を期待する。学校評価の内容を踏まえ、学校運営協議会で検討された提言を以下に述べる。

2. 令和8年度に向けた提言 項目は学校評価及び本校の学校経営計画に基づく

○学校評価アンケート

提言

- ・保護者アンケートの質問項目について、「わからない」回答が多いものについては、「質問自体に問題がある」、「評価の判断材料がない」、「その他に問題がある」等を検証し、「わからない」の回答を減らす。
- ・生徒アンケートの質問項目については、目的を明確にし、その目的の達成に即した質問を内容にする。
- ・生徒へのアンケートについては、障害の程度が重度であっても自ら選択し回答ができるような工夫があるとよい。

○学校経営計画

1 人権尊重の精神で安心、環境整備を徹底し安全な学校（セーフティ・スクール）

提言

- ・「安心安全」と「人権意識向上」の継続的な取組み

人権意識の尊重は、学校として定めた人権週間の取組みを引き続きお願いしたい。授業見学からも、一人一人の教職員が人権感覚を磨く努力を重ねていることが分かるため、今後の教育活動に生かすことを期待する。安全面では、駐車場の横断歩道設置の対応など、学校としての前向きな姿勢を感じる事ができる。学校評価の内容を丁寧に精査しながら、連携を進めてほしい。

2 多岐にわたる特別支援教育の専門性を高める学校（スペシャリティ・スクール）

提言

- ・児童・生徒の実態に即した適切な指導の展開
- ・学校卒業後に向けた各学部段階での日常生活及び進路指導の焦点化
- ・各学部間における指導の連携と移行支援

進路指導については、継続的な進路指導の理解への取り組みが学校評価に反映されて来ている。各学部のライフキャリア・ワークキャリア双方の視点をより明確にし、学校全体での縦の連携、系統性を積み上げてほしい。

3 保護者や地域と協働する学校（コラボレーション・スクール）

提言

- ・更なる地域資源の活用とその情報発信
- ・近隣の小・中・高との活動・行事連携
- ・放課後等デイサービスへの丁寧な引継ぎ

地域資源を活用しながら余暇活動の選択肢を示すことができている。学校を拠点としながらも地域資源と連携して余暇活動を活発にしていく取組みについて積極的な情報発信を期待したい。

今後も継続して、近隣の小・中・高との連携を行い地域社会での障害理解や信頼関係の構築を進めほしい。

放課後等デイサービスに児童・生徒を引渡す際は、健康状態の異変や普段と異なる様子が見られる場合はより丁寧な情報共有（引継ぎ）をお願いしたい。

4 デジタルを活用した教育活動を充実する学校（スマート・スクール）

提言

- ・ICT 機器及び付随するデジタルソフトウェアを活用した授業についての積極的な情報発信
- ・教職員全体の ICT・デジタル活用スキル向上の底上げ

今年度より学校経営計画の柱に据え、デジタル推進の研究を柱に、デジタルの活用促進については一定の効果が伺えた。ICT 全般は便利なツールである一方、「どう使えるか」の検証・計画を踏まえたうえで、学習指導要領や年間指導計画を実施していくことに効果的であることが重要と考える。個別指導計画等での共有、面談等での積極的な情報共有など、効果をもたらす方法はいくつか考えられるため、せっかくの良い取り組みをより発信できていけると良い。

児童生徒はもちろんのこと、教職員のデジタル活用・リテラシー向上のためには、外部の専門家や研修の計画的な構築を望む。